

HOBconnect[®]ユーザーガイド

始めるには.....	2
デバイスの表示.....	3
デバイス情報の確認.....	4
デバイスへの接続.....	5
接続後のロガーの使用.....	6
ロガーの設定.....	8
MX2001 水位ロガーの流体パラメーターの更新.....	18
MX2501 pH および温度ロガーの較正.....	19
ゲートウェイの設定.....	20
ロガーの読み出し.....	21
HOBfile ビューワースの使用.....	22
ダッシュボードの使用.....	24
HOBconnect の設定.....	25
よくある質問.....	26

始めるには

HOBObconnect は、Bluetooth®Low Energy 対応の HOBOb®MX デバイスで動作するように設計されたソフトウェアです。

HOBObconnect :	対応しているもの :
モバイルデバイスまたはコンピュータの要件	Android™ 7.0 以降、iOS 11 以降、iPadOS®、Windows® 10 以降、Bluetooth 4.0 以降。 注: Windows アプリの場合、ネイティブの BLE アダプタまたはサポートされている BLE ドングルが必要です。詳細については、 www.onsetcomp.com/products/software/hobobconnect を参照してください。
互換性のある HOBOb デバイス	MX100、MX1101、MX1102A、MX1104、MX1105、MX2001、MX2200、MX2300、MX2501、MX ゲートウェイ

MX デバイスの仕様と詳細情報については、www.onsetcomp.com/support/manuals で入手できる製品マニュアルを参照してください。

HOBObconnect のダウンロード先

- AppStore®または Google Play™から Android または Apple®のスマートフォンまたはタブレットにアプリをダウンロードします。アプリをインストールするときは、スマートフォンまたはタブレットの位置情報とデバイス上のファイルの両方へのアクセスを許可する必要があります。
- Windows アプリは www.onsetcomp.com/products/software/hobobconnect からダウンロードしてください。アプリをインストールするときは、アプリがコンピュータのファイルシステムにアクセスすることを許可する必要があります。

メインアイコンの紹介

HOBObconnect 内のすべての機能には、これらの 3 つのアイコンからアクセスできます。

タップするアイコン :	できること :
	スマートフォンまたはタブレットの通信範囲内のロガーとゲートウェイを表示して接続します。ロガーの設定と状態の確認、ライブデータの表示、ロガーデータの読み出し、ゲートウェイのセットアップなど。
	ロガーの読み出しをグラフで表示し、ファイルをエクスポートして、他の人と共有します。
	ダッシュボードをセットアップして、範囲内にあるロガーの最新の測定値をすばやく確認します。
	アプリの設定の変更やアプリに関する情報にアクセスします。

使用上の注意: 本ガイド内の例は、Android 版の HOBObconnect アプリのものです。iOS/iPadOS および Windows 版のアプリの画面は、例示されているものと若干異なる場合があります。さらに、使用している Windows コンピュータがタッチスクリーンに対応していない場合、本ガイドでタップするように指示されている箇所は、マウスでアイコンをクリックしてください。

デバイスの表示

HOBObconnect は Bluetooth Low Energy を使用して、スマートフォン、タブレットまたはコンピュータの通信範囲内のすべてのロガーおよびゲートウェイと通信します（範囲の仕様については、デバイスのマニュアルを参照）。起動しているロガーとゲートウェイは、アプリが検出する Bluetooth 信号を「アドバタイズ」または定期的送信します。範囲内のデバイスを表示するには、[デバイス (Devices)] をタップします。各ロガーまたはゲートウェイに関する情報はタイルに表示されます。タイルの色は変わることがあり、以下で説明するように、ロガーの状態に応じて左側にバーが表示される場合もあります。

タップして表示されるデバイスにフィルターをかけます。

タップしてデバイスの並び順を変更

タップして[デバイス (Devices)]のリストを表示

バーの色： 意味：

赤	ロガーのアラームが作動しました（アラームアイコンでも表示されます）。
オレンジ	デバイスは回復状態にあります。大抵はファームウェアの更新が完了していないことが原因です。

タイルの色： 意味：

緑	ロガーのボタンが押されたため、リストの一番上に移動しました（一部のロガーモデルは使用できません）。
白	通常の状態。定期的なアドバタイズを受信します。
グレー	「古い」状態。最近アドバタイズを受信していません。

アラームが作動したロガーが最初にリストされます。ロガーを起動するためにロガーのボタンを押した場合は（一部のロガーモデルは使用できません）、そのロガーがリストの一番上に表示されます。デフォルトでは、他のすべてのロガーは名前の昇順でリストされます。

デバイスの並び順を変更するには：

[デバイス (Devices)]画面の右上部にある  をタップし、次のいずれか一つを選択して[OK]をタップします。

選択するもの： デバイスの並び順：	
名前 (Name)	デバイス名の昇順またはアルファベット順。デバイスに名前が設定されていない場合、シリアル番号が使用されます。
グループ (Group)	グループ名のアルファベット順。グループに割り当てられていないデバイスは、グループ内にあるすべてのデバイスの後にリストされます。
シリアル番号 (Serial #)	デバイスのシリアル番号の昇順。デバイスに名前が設定されていても、シリアル番号が使用されます。
モデル (Model)	デバイスのモデル番号の昇順（例：MX1101、MX2301、など）
発見時間 (Discovery time)	アプリがデバイスから Bluetooth のアドバタイズを最初に受信したとき。デバイスは、アプリによって最初に検出されたものから順番に最後のものまで並びます。

ロガーアラームが作動した場合、または Bluetooth アドバタイズが受信されなかった場合は、選択した並び順が若干異なる場合がありますので注意してください。

表示されるデバイスにフィルターをかけるには：

[デバイス (Devices)]画面の左上部にある  をタップし、[すべて]または次の 1 つまたは複数を選択して、[OK]をタップします。

選択するもの： 範囲内にある次のデバイスを表示する：

すべて (All)	すべてのロガーとゲートウェイ。
ゲートウェイ (Gateways)	ゲートウェイのみ。
ロガー (Loggers)	ロガーのみ。
お気に入り (Favorites)	お気に入りとしてマークされているロガー（お気に入りに関する詳細については ロガーの詳細とアクション を参照）。
自分のデバイス (My Devices)	スマートフォンまたはタブレットに接続したロガーとゲートウェイ。注：アプリの設定で[自分のデバイスリストをクリア (Clear My Devices List)]を選択すると、このリストをクリアできます。
グループ外 (Ungrouped)	グループに割り当てられていないすべてのロガー。
<グループ名 (Group Name)>	選択されたグループ名で設定されたロガーのみ（グループに関する詳細については ロガーの設定 を参照）。

デバイスを検索するには：

[デバイス (Devices)]画面の上部にある検索フィールドをタップして、1 つまたは複数の文字を入力します。シリアル番号、ロガー、グループ名またはモデル番号で検索できます。各文字が入力されると、リストは自動的に絞り込まれます。検索フィールドにあるXをクリックして検索をキャンセルします。

デバイス情報の確認

ロガー (Loggers)

各タイルはロガーに関する次の情報が含まれています：

ロガーの名前。名前が入力されていない場合、シリアル番号が表示されます

アラームが作動（バーの色に関する詳細はデバイスの表示を参照）

ロガーモデルの画像

ロガーのモデル番号



現在のセンサー読取値（ロガーが記録をしていなくても表示されます）。一部のモデルでは、読取値がロギングインターバルとは異なる間隔で更新され、ロガーLCD（該当する場合）に現在表示されているものと一致しない場合があります。

注：

- **MX1104 と MX1105 ロガー**：外部センサーのチャンネルが無効になっているときは、センサー読取値は“-”と表示されます。以前に接続された外部センサーの値は、新しいセンサーが設定され、記録が開始されるまで表示される場合があります。
- **MX2001 ロガー**：記録が停止するとセンサー読取値は“-”と表示されます。記録が始まると、表示される測定値は、入力した基準水位と流体密度に基づいています。

ゲートウェイ(Gateways)

各タイルはゲートウェイに関する次の情報が含まれています：

ゲートウェイの名前。名前が入力されていない場合、シリアル番号が表示されます

ゲートウェイモデルの画像

ゲートウェイの製品名



インターネットの接続状態

Bluetooth の信号強度

現在のゲートウェイ状態

デバイスへの接続

デバイスに接続するには：

1. [デバイス(Devices)]をタップします。
2. タイルを検索またはスクロールして、接続するロガーまたはゲートウェイを探します（該当する場合は、ロガーを最初に起動させてください）。
3. タイルをタップして、ロガーまたはゲートウェイに接続します。もしプロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。MX2501 ロガーに関しては、ロガーを設定する前にロガーを較正するように求められる場合があります。

デバイスに接続するときの注意：

- スマートフォン、タブレットまたはコンピュータの Bluetooth が有効になっていることを確認してください。
- **MX100、MX1104、MX1105、MX2200、MX2300 および MX2501 ロガー：**ロガーが Bluetooth 省電力モードの場合は、ロガーのボタンを押して起動させるか、MX2203、MX2204、または MX2501 ロガーが[水検出時 Bluetooth オフ (Bluetooth Off Water Detect)]に設定されている場合は、水から取り出します。
- ロガーまたはゲートウェイは、接続するためにスマートフォン、タブレットまたはコンピュータの範囲内にある必要があります（範囲の仕様については、製品マニュアルを参照）。接続に問題がある場合、ゲートウェイのロガーの信号強度を確認してください。信号強度が青いバーを 1 つか 2 つしか表示していない場合、スマートフォンまたはタブレットをデバイスにもっと近づけます。
- ロガーのバッテリーを確認します。バッテリーが新しいロガーに正しく取り付けられていることを確認し、バッテリー電圧が低い場合は古いロガーのバッテリーを交換してください。
- スマートフォン、タブレット、コンピュータまたはコンピュータの dongle の向きを変えて、アンテナをロガーまたはゲートウェイの方向に向けます（アンテナの位置については、デバイスマニュアルを参照）。デバイスのアンテナとロガーまたはゲートウェイの間に障害物があると、接続が途切れることがあります。
- スマートフォン、タブレットまたはコンピュータがリスト内に表示されているロガーまたはゲートウェイに接続しない場合、またはデバイスが期待されているようにリストに表示されない場合、アプリを閉じてから、もう一度開いてください。それでも問題が解決しない場合、アプリを閉じてから、デバイスの電源を切り、Bluetooth の接続を強制リセットしてください。
- **MX1102A ロガー：**HOBOWare®とのライブ USB セッションが進行中の間、HOBOnnect を使って MX1102A ロガーに接続することはできません。ロガーに接続するためにアプリを使用したい場合、USB ケーブルの接続を切ります。
- **ゲートウェイ：**ゲートウェイで現在自動的にファームウェアの更新が行われている場合、スマートフォン、タブレットまたはコンピュータはゲートウェイに接続できません。ファームウェアの更新中はゲートウェイの LED が黄色で点滅し、数分後に通常の動作を再開します。

接続後のロガーの使用

ロガーがスマートフォン、タブレットまたはコンピュータに接続されると、このような画面が表示されます。

この矢印をタップすると、接続が切れ、デバイスのリストに戻ります。

現在のロガーの状態とセンサー読取値が表示されます。一部のモデルでは、現在の読取値がロギングインターバルとは異なる間隔で更新され、ロガーLCD（該当する場合）に現在表示されているものと一致しない場合があります。

このアイコンをタップしてロガーを読み出します（詳細はロガーの読み出しを参照）。

このアイコンをタップしてロガーを設定します（詳細はロガーの設定を参照）。

iPhone®、iPad®またはAndroid デバイスの場合、タップすると、ロガーの詳細を表示したり、ロガーのパスワードにアクセスしたり、記録を停止したり、その他の機能にアクセスしたりできます（ロガーの詳細とアクションを参照）。**注:** Windows 版の場合、これらの機能はすべてメイン画面に表示されます。

タップすると、10 秒毎に更新されるライブデータのグラフが表示されます。

iPhone、iPad または Android デバイスの場合、特定のポイントを表示するには、軸内の任意の場所を長押しします。これらは記録データポイントとは異なる場合があります。記録データを確認するには、HOBOb ファイルからグラフを表示します。

MX2001 ロガーについての注意： ロガーが停止すると、表示される水位の読取値には、入力した基準水位と流体密度の値が反映されません（基準水位がゼロになり、流体密度が [温度に対して調整された淡水密度(Fresh Water adjusted for Temperature)] に戻ります）。記録が始まると、表示される測定値は、入力した基準水位と流体密度に基づいています。

ロガーの詳細とアクション

ロガーに接続すると、ロガーに関する以下の情報を表示させることができます（該当する場合は、右上隅にあるこのアイコン

を最初にタップします）：

- ロガーのシリアル番号、モデル番号、ファームウェアバージョン
- 使用メモリーのパーセンテージ（該当する場合、一部のロガーでは利用できません）
- バッテリーの残量
- Bluetooth の信号強度

以下の表で説明されている次の機能にもアクセスできます。

タップする
アイコン： できること：



ロガーのピープ音が 1 回鳴り、位置を突き止めるのに役立ちます（MX1101、MX1102A、MX1104 または MX1105）。



ロガーLED が数秒間点灯します（MX100、MX2200、MX2300、および MX2501）。

タップする
アイコン： できること：



ロガーが作動したときにビープ音アラームを停止します（MX1101、MX1102A、MX1104 または MX1105）。可聴アラーム構成設定に関する詳細についてはロガーの設定を参照してください。



ロガーのファームウェアを更新します（新しいファームウェアがある場合にのみ表示）。ファームウェアの更新プロセス開始時に、ロガーの読み出しが自動的に完了します。ファームウェアの更新プロセス中に通信障害が発生した場合、一部のロガーは以前のファームウェアに戻る場合があります。**MX2501 ロガーについての注意：**ファームウェアの更新後、ロガーを再校正する必要があります。

重要：ロガーのファームウェアを更新する前に、バッテリー残量が 30%以上あることを確認します。更新プロセス中に、デバイスがロガーの通信範囲内に留まる必要があるため、更新全体を完了する時間を取れるようにしてください。更新中は、他のアプリに切り替えたり、Bluetooth をオフにしたり、ロガーの妨げになるようなことはしないでください。



ロガーが誤って停止または再設定されないようにロガーのパスワードを設定します。アイコンをタップし、パスワードを入力して、[設定(Set)]をタップします。スマートフォンまたはタブレットにパスワードが入力されると、そのモバイルデバイスのみがパスワードを「記憶」します。そのモバイルデバイスではパスワードを入力しなくてもロガーに接続できますが、他のすべてのモバイルデバイスではパスワードを入力する必要があります。例えば、タブレットでロガーのパスワードを設定してから、スマートフォンで後にデバイスへ接続しようとする場合、スマートフォンではパスワードを入力する必要がありますが、タブレットでは入力する必要がありません。同様に、他人が異なるデバイスを使用してロガーに接続しようすると、パスワードを入力する必要があります。パスワードをリセットするには：

- ロガーの、[開始 / 停止ボタン(Start/Stop)]と[アラーム / ステータス(Alarm/Stats)]ボタン（MX1101）、[開始 / 停止(Start/Stop)]ボタンと[次に / クリア(Next/Clear)]ボタン（MX1102A）、または上下のボタン（MX1104 と MX1105）を同時に 3 秒間押します。
- MX2001 ロガーのバッテリーの間にあるリセットボタンを押します。
- MX100、MX2200、または MX2300 のボタンを 10 秒間押します。または
-  のアイコンをタップし、[リセット (Reset)]をタップします。



ロガーをお気に入りとしてマークします。そうすることで、デバイスのリストをフィルタリングしたとき、お気に入りとしてマークされたロガーのみを表示できます。アイコン  をタップして、お気に入りのマークを解除します。



記録を開始または再開します。これは、ロガーが記録の開始を[オンボタンプッシュ (On Button Push)]に設定されている場合、またはロガーが記録の停止を[オンボタンプッシュ (On Button Push)]に設定している場合、[ボタンによる再起動を許可する(Allow Button Restart)]に設定されている場合に使用できます（ロガーの設定を参照）。



記録を停止します。

ロガーの設定

ロガーを設定するには：

1. [デバイス(Devices)]をタップします。
2. タイルを検索またはスクロールして、ロガーを探します（該当する場合は、ロガーを最初に起動させてください）。
3. タイルをタップしてロガーに接続し、画面下部にある  をタップします。プロンプトが表示されたらロガーを読み出します。
4. 行をタップして構成設定を変更します（各設定の詳細については、このセクションにある表を参照）。
5.  をタップしてロガーの新しい構成設定を保存します。

注：

- MX2501 ロガーは較正する必要があります。ロガーを自動的に較正するように求められる場合と  を自分でタップする場合があります。詳細については、**MX2501 pH および温度ロガーの較正**を参照してください。
-  をタップして MX2001 ロガーの流体パラメーターが設定された後、それを更新することができます。詳細については、**MX2001 水位ロガーの流体パラメーターの更新**を参照してください。

配置情報(Deployment Information)

配置情報設定	説明
名前 (Name)	ロガーの名前を入力します。これは、デフォルトのデータファイル名としても使用されます。名前を入力しない場合、ロガーのシリアル番号が名前として使用されます。
グループ (Group)	ロガーをグループに割り当てて、識別しやすくします。例えば、建物の 3 つの階にロガーを配置している場合、3 つの階それぞれにグループを作成し、各ロガーを適切なグループに追加できます。[グループ (Group)]をタップしてから既存のグループを選択するか、新しいグループを作成して[追加(Add)]をタップします。そして、[保存 (Save)]をタップします。 グループを削除するには： [グループ (Group)]をタップし、削除したいグループを長押しして  をタップします。 グループからロガーを削除するには： [グループ (Group)]をタップし、[どれも選択しない (None)]を選択して、[保存(Save)]をタップします。
配置番号 (Deployment Number)	これは、ロガーが設定された回数です。編集できません。
配置日 (Deployment Date)	これは、ロガーが最後に設定された日時です。編集できません。次の配置のタイムゾーンを変更する必要がある場合は、スマートフォンまたはタブレットの設定を変更してください。
基準水位と流体密度(Reference Water Level and Water Density)	MX2001 ロガーのみ： ロガーが停止している場合、または記録を設定している場合は、これらの 2 つの行をタップします。[基準水位 (Reference Water Level)]をタップする場合は、ロガーの配置の基準水位を入力し、単位タイプを選択して、[保存 (Save)]をタップします。[流体密度 (Water Density)]をタップする場合は、流体密度を選択するか、手動入力 (Manual Input)の横に独自の値を入力し単位のタイプを選択して、[保存 (Save)]をタップします。必要に応じて配置の間に (MX2001 水位ロガーの流体パラメーターの更新を参照) または HOBOb ファイル (HOBObfile ビューワーの使用を参照) 内でこれらの値を更新することができます。

配置情報設定	説明
pH 較正(PH Calibration)	MX2501 ロガーのみ ：これは、ロガーを較正した後の傾き、オフセット、較正点、較正時間を示しています。詳細については、 MX2501 pH および温度ロガーの較正 を参照してください。

ロガーセットアップ(Logger Setup)

ロガーセットアップ 設定	説明
ロギングインター バル(Logging Interval)	ロガーが測定を行う頻度を時間、分、秒で選択します。ロギングインターバルが短いほど、バッテリー寿命への影響が大きくなり、記録期間が短くなりますので注意してください。注：ロガーがバーストロギングモードになっている場合、バーストロギングインターバルで測定されます（後にこのセクションで説明あり）。 MX1102A ロガーに関する重要な注意点：MX1102A ロガーのバッテリー寿命は、CO₂を記録し、5分よりも短いロギングインターバルまたはサンプリングインターバルを選択した場合、6か月未満です。二酸化炭素センサーが有効になっている場合は、ロギングインターバルとサンプリングインターバルを5分以上に設定すると、バッテリー寿命を延ばせます。5分よりも短い間隔を選択すると、電池をより頻繁に交換する必要があります。 MX1104、MX1105、MX2200、MX2300、および MX2501 ロガー：アラームを設定する場合、ロガーは、アラーム条件をチェックする頻度として自分が選択したロギングインターバルを使用します。しかしながらバーストロギングが設定されている場合、ロガーは、ロギングインターバルの代わりに、バーストリガー条件をチェックする頻度としてバーストロギングインターバルを使用します。 MX2001 ロガーのみ：合計8つのロギングインターバルを設定できます。[ロギングインターバル (Logging Intervals)]をタップして、インターバル1に頻度を時間、分、秒で入力します。[追加 (Add)]をタップして、追加のロギングインターバルをセットアップします。間隔ごとに、頻度を入力し、選択した頻度で記録されるサンプルの数を選択します。[保存 (Save)]をタップします。注：ロギングインターバルを1つしか使用していない場合は、サンプル数は変更できません。必要に応じて、をタップしてロギングインターバルを削除します。
記録期間(Logging Duration)	これは、ロギングインターバルや現在選択されているロギングモードやセンサーなどの他の因子（該当する場合）に基づき、ロガーメモリーがいっぱいになるまでにかかるおよその時間です。これは、単なる推定であり、編集できません。バッテリー寿命や行われた読み出しの数、可聴アラーム（該当する場合）またはページング（該当する場合）などの他の因子も配置に影響を与えます。
記録の開始 (Start Logging)	[記録の開始 (Start Logging)]をタップし、次のうちから1つ選択して[保存 (Save)]をタップします。 • [即時 (Now)]。構成設定の保存後、記録は直ちに始まります。 • [次のロギングインターバル (On Next Logging Interval)]。選択したロギングインターバルに従い、次の定時インターバルから記録を開始します。これは、ロガーを開始して、その後定時の分にデータを記録したい場合に役立ちます。 • [オンボタンプッシュ (On Button Push)]。アプリのをタップするか、ロガーのボタンを押すと（該当する場合）記録が始まります。 • [日付/時刻指定 (On Date/Time)]。自分が指定した日付および時間から記録を開始します。日付と時刻を選択します。選択したタイムゾーンを変更する必要がある場合は、スマートフォン、タブレットまたはコンピュータのタイムゾーン設定を変更してアプリを再起動する必要があることにご留意ください。

ロガーセットアップ 設定

説明

記録の停止 (Stop Logging)

[記録の停止 (Stop Logging)]をタップし、下記のオプションから選択して、[保存 (Save)]をタップします。**注：**自分が選択するオプションに関係なく、ロガーに接続し、右上隅にあるをタップして（該当する場合）、をタップすることにより、ロガーをいつでも停止できます。

メモリーオプション

- **[メモリーがいっぱいになるまで (When Memory Fills)]。** ロガーのメモリーがいっぱいになるまでデータ記録を続けます。
- **[停止しない (いっぱいになったら上書き) (Never (Wrap When Full))]**。 ロガーは最新のデータを一番古いデータに上書きしながら、無期限にデータ記録を続けます。ロギングモードが[バースト (Burst)]に設定されているロガーはこのオプションを利用できません。

ボタンオプション

- **[オンボタンプッシュ (On Button Push)]**を選択し、ロガーの[開始 (Start)]ボタンを3～4秒間押して記録を停止します（MX2001 ロガーは利用不可）。
- **MX1101、MX1104 および MX1105 ロガー：** [記録の停止 (Stop Logging)]で[オンボタンプッシュ (On Button Push)]の設定を選択した場合、[ボタンの再起動を許可 (Allow Button Restart)]を選択するオプションもあります。これにより、MX1101 ロガーは[開始/ 停止 (Start/Stop)]ボタンを押して、MX1104 または MX1105 ロガーの場合は上のボタンを3秒間押すことにより、記録を一時停止または再開できます。

重要： [ボタンによる再起動を許可する (Allow Button Restart)]が選択されている場合にボタンを押すと、次の定時ロギングインターバルで記録が再開されます。例えば、ロガーが午前7時に記録を開始し、ロギングインターバルを1時間に設定したとします。ボタンを押してロガーを午前8:45に停止し、午前10:15に再度ボタンを押しても、記録は午前10:15にはすぐ開始されません。代わりに、記録は午前11:00に再開します。これは、ロギングインターバルが1時間のため、次の定時インターバル時間が11時だからです。したがって、ロギングインターバルによっては、ボタンを押して記録を再開する時間と実際の記録開始時間のギャップが大きくなる可能性があります。ロギングインターバルが短いほど、記録再開までの時間が短くなります。

時間オプション

- **[停止しない (Never)]。** 事前に定めた期間でロガーを停止させたくない場合にこれを選択します。
- **[日付/時刻指定 (On Date/Time)]。** これを選択して、ロガーの記録を停止する日時を設定します。選択したタイムゾーンを変更する必要がある場合は、スマートフォンまたはタブレットのタイムゾーン設定を変更してアプリを再起動する必要があることにご留意ください。
- **[記録後 (After)]。** これを選択して、ロガーが記録を開始してからどのくらい記録を継続するのかを日数、時間、分、秒で設定します。例えば、30日後にロガーの記録を停止したい場合、30日を選択します。

ロガーセットアップ 設定

説明

ロギングモード (Logging Mode)

[ロギングモード (Logging Mode)]をタップし、[固定ロギングモード (Fixed Logging Mode)]または[バーストロギングモード (Burst Logging Mode)]を選択して、該当する設定を選択し、[保存 (Save)]をタップします (MX100 を除くすべてのモデル)。
MX2001 ロガーのみ：複数のロギングインターバルが設定されている場合、ロギングモードを変更できません。

固定ロギングモード(Fixed Logging Mode)

選択したロギングインターバルで、ロガーは有効なセンサーまたは選択した統計のデータを記録します。選択した統計は、各ロギングインターバルで記録された結果を用いて、指定したサンプル率で計算されます。

1. 有効なセンサーの現在の読取値を各ロギングインターバルで記録する場合、[通常 (Normal)]を選択します。統計のみを記録したい場合は、これを選択しないでください。**MX2001 ロガーのみ：**水位と気圧のデータを記録する場合は、[通常 (Normal)]を選択する必要があります。[通常 (Normal)]の選択を解除すると、ロガーは有効なセンサーの統計シリーズのみを記録します。水位や気圧は計算されません。
2. 各ロギングインターバルでロガーに記録させたい有効なセンサーの統計を選択します。
 - 最大値、サンプリング期間の最高値
 - 最小値、サンプリング期間の最低値
 - 平均値、サンプリング期間中のすべての値の平均
 - 全てのサンプルの平均値の標準偏差 (平均が必要)。
3. [統計サンプリングインターバル (Statistics Sampling Interval)]を設定します。これは、統計の計算に使用される頻度であり、ロギングインターバルの因数でなければなりません。例えば、ロギングインターバルが 1 分で 5 秒のサンプル率が選択されている場合、ロガーは各ロギングインターバルに 12 のサンプル値を読み取り (5 秒毎に 1 つのサンプルを 1 分間)、この 12 のサンプルを使用してロギングインターバル 1 分ごとの統計結果を記録します。サンプル率が頻繁なほど、バッテリー寿命に与える影響が大きくなります。

MX1102A ロガーに関する重要な注意点： MX1102A ロガーのバッテリー寿命は、CO₂ を記録し、5 分よりも短いロギングインターバルまたはサンプリングインターバルを選択した場合、6 か月未満です。二酸化炭素センサーが有効になっている場合は、ロギングインターバルとサンプリングインターバルを 5 分以上に設定すると、バッテリー寿命を延ばせます。5 分よりも短い間隔を選択すると、電池をより頻繁に交換する必要があります。

バーストロギングモード(Burst Logging Mode)

ロガーは、読取値が特定の限度を超えるか下回るまで、通常のロギングインターバルで有効なセンサーのデータを記録します。限度を超えると、ロガーは読取値が通常に戻るまで、より短いバーストロギング率に切り替わります。例えば、ロガーを 5 分のロギングインターバルで設定して、温度が 85°F (上限) を超えるか、32°F (下限) を下回るとバーストロギングで 30 秒ごとに記録するように設定します。この場合、温度が 32°F と 85°F の間であれば、ロガーは 5 分毎に記録します。温度が 85°F を超えるとロガーはより速いロギング率に切り替わり、温度が 85°F に戻るまでデータを 30 秒毎に記録します。温度が戻ると、再び通常のロギングインターバルである分単位で記録します。同様に、温度が 32°F を下回ると、ロガーはバーストロギングモードに切り替わり、30 秒毎にデータ記録を行います。そして温度が 32°F にまで再び上がると、ロガーは通常モードに戻り、5 分毎に記録します。

1. バーストロギングインターバルを選択します。これは、ロギングインターバルよりも短くする必要があります。

ロガーセットアップ 設定

説明

2. 各センサーの[低 (Low)]または[高 (High)]を選択し、入力するかスライダーをドラッグして、下限値および/または上限値を設定します。

注：

- センサーアラーム、統計、および[記録の停止 (Stop Logging)]オプションの[いっぱいになったら上書き (Wrap When Full)]は、バーストロギングモードでは使用できません。
- 実際のバースト上限および下限値 はロガー対応値に一番近い値に設定されます。
- **MX1101、MX1102A および MX2001 ロガー：** ロガーが設定されると、バーストロギングの上限および下限値は 15 秒に 1 回だけチェックされます。したがって、ロギングインターバルを 15 秒未満に設定し、センサーの読取値が制限を超えると、バーストロギングは次の 15 秒サイクルまで開始されません。
- **MX1104、MX1105、MX2200、MX2300、および MX2501 ロガー：** ロガーが通常モードであれバーストモードであれ、バーストロギングインターバル率でバースト上限および下限値がチェックされます。例えば、ロギングインターバルが 1 時間に設定され、バーストロギングインターバルが 10 分に設定されると、ロガーは常に 10 分ごとにバースト限度をチェックします。
- 上限または下限状態が解除されると、通常モードで記録された最後のデータポイントではなく、バーストロギングモードで最後に記録したデータポイントからロギングインターバルを計算します。例えば、ロガーのロギングインターバルは 10 分で、データポイントを 9:05 で記録を行いました。その後、上限値を超えたので 9:06 からバーストロギングを開始しました。それからセンサー読取値が上限値以下に戻る 9:12 まで、バーストロギングは続きました。通常モードに戻ると、次のロギングインターバルは最後のバーストロギングポイントから 10 分なので、この場合は 9:22 になります。バーストロギングが開始しなかったとしたら、次のデータポイントは 9:15 になるはずでした。
- バーストロギングモード中にボタンを押して停止した場合、実際には上限または下限状態が解除されていないとしても、[新規インターバル(New Interval)]イベントが自動的に記録されバースト状態は解除されます。ロガーは、記録の再開時に上限および下限状態をチェックします（ロガーが[ボタンによる再起動を許可する (Allow Button Restart)]を選択した状態で設定された場合。MX1101、MX1104 および MX1105 ロガーのみ）。

ロガーセットアップ 設定

説明

可聴アラーム (Audible Alarm) トグルをタップして、ロガーの可聴アラームをオフまたはオンにします (MX1101、MX1102A、MX1104、および MX1105 ロガーのみ)。可聴アラームがオンの場合、アラームが作動すると、次のいずれかが発生するまで (いずれか早い方) ロガーは 30 秒ごとに 1 回ビープ音を鳴らします。

- アプリからアラームを解除する (ロガーに接続し、(該当する場合は) 右上隅の  をタップしてから、 をタップします。
- ロガーのボタンの 1 つが押される。
- 7 日間経過。

注：

- アラーム音がクリアされても、センサーの値が正常範囲から外れると、アラームのビープ音が再度鳴り始めます。可聴アラームが解除された場合でも、視覚アラームを維持するよう選択された設定によって、またはアラーム条件がまだ有効である場合、視覚アラームがロガーLCD およびアプリ内に継続することがあります。さらに、センサー値が正常範囲に戻ったときは、解除されるまで可聴アラームが鳴り続けます。
- ビープ音を簡単にオフにできるように、ロガーに定期的にアクセスできる場合にのみ、この機能を有効にすることをお勧めします。アラーム音が鳴るたびに、バッテリー寿命がわずかに短くなるので注意してください。

次の時間まで視覚アラームを維持 (Maintain Visual Alarms Until)

次のオプションのいずれかを選択し、[保存(Save)]をタップして、アラームが作動した後、アラームアイコンがアプリに表示され続ける (および該当する場合はロガーの LCD 画面で点灯する) 時間を決めます。

- **ロガー再設定(Logger Reconfigured) (MX100 および MX2001 を除くすべてのモデル)**。アラームアイコンは、次にロガーが再設定されるまで表示されたままになります。
- **センサーが限度内(Sensor in Limits) (MX100 を除くすべてのモデル)**。アラームのアイコンは、センサーの読取値が、設定されたアラームの上限と下限の間の通常範囲に戻るまで、表示されたままになります。
- **アラームボタンが押される(Alarm Button Pressed) (MX1101、MX1102A、MX1104、および MX1105 ロガー)**。アラームアイコンは、ロガーの[アラーム/ステータス (Alarm/Stats)]ボタン (MX1101)、[クリア/次に (Clear/Next)]ボタン (MX1102A)、または下のボタン (MX1104 および MX1105) を押すまで表示されたままになります。

注：

- **MX100 ロガー**：アラームを設定するときは[次の時間まで視覚アラームを維持 (Maintain Visual Alarms Until)]設定が自動的に選択されます。アラームが作動すると、(LED 表示 (Show LED)が無効でない限り) ロガーアラーム LED が 4 秒毎に点滅し、アプリにアラームアイコンが表示され、[アラーム範囲外 (Alarm Out of Range)]イベントが記録されます。温度の読取値が通常の範囲に戻っても、アラームインジケータはアプリで消去されず、アラーム LED は点滅し続けます。
- **MX1101、MX1102A、MX1104 および MX1105 ロガー**：センサーアラームが作動すると、可聴アラームと視覚アラームが同時に発生する可能性があります。それらは異なる方法で解除されます。可聴アラームは、可聴アラームセクションで説明されているように解除できます。一方で、視覚アラームは、上記の 3 つの設定の中から決定した方法によって解除されます。可聴アラームのビープ音を解除することはできませんが、視覚アラームは、選択した設定により、ロガーが再設定されるか、センサーが限界値に達するか、ボタンが押される (該当する場合) まで、LCD (該当する場合) とアプリに残ります。ロガーがボタンを押すことで記録を停止するように設定されている場合、記録が停止されると、作動したアラームは自動的にクリアされ、[アラームクリ

ロガーセットアップ 設定

説明

	ア (Alarm Cleared)]イベントはデータファイルに記録されません。これにより、記録の再開時にロガーがアラーム条件のチェックを確実に開始します (ロガーの[ボタンによる再起動を許可する(Allow Button Restart)]が選択されている場合)。MX1101、MX1104 および MX1105 ロガーのみ)。
LCD 表示(Show LCD)	トグルをタップして、記録中にロガーの LCD を点灯したままにするかどうかを指定します (MX1101、MX1102A、MX1104、および MX1105 ロガー)。[LCD の表示 (Show LCD)]がオフに設定されている場合、ロガーの LCD には、記録中に現在の読取値、ステータス、またはその他の情報が表示されません。ロガーのボタンを 1 秒間押すと、一時的に LCD 画面をオンにすることができます。その後、LCD は 10 分間表示したままになります。さらに、ロガーの LCD 設定に関係なく、通信範囲内にあるロガーの状態はスマートフォンまたはタブレットで表示できます。
LED 表示 (Show LED)	トグルをタップして、記録中にロガーの LED を表示するかどうかを指定します (MX100、MX2200、MX2300、および MX2501 モデル)。[LED 表示 (Show LED)]がオフに設定されている場合、ロガーのアラームとステータス LED は、記録中点灯しません (アラームが作動する場合アラーム LED は点滅しません)。ロガーのボタンを 1 秒間押すと、一時的に LED をオンにすることができます。
Bluetooth 常時オン (Bluetooth Always On)	トグルをタップして、ロガーが「アドバタイズ」するか、アプリが受信する Bluetooth 信号を定期的送信するかを指定します (MX100、MX1104、MX1105、MX2201、MX2202、および MX2300 ロガー)。[Bluetooth 常時オン (Bluetooth Always On)]がオフに設定されている場合、ロガーのボタンを押して起動したときのみロガーがアドバタイズすることで、ロガーのバッテリー電力を最大限節約します。 注： MX ゲートウェイを使用している場合、Bluetooth が自動的に有効になり、定期的なゲートウェイのアップロードが確実に行われます。
省電力モード (Power Saving Mode)	次のいずれかのオプションを選択し、[保存 (Save)]をタップします (MX2203、MX2204、および MX2501 モデル)。 • Bluetooth 常時オフ (Bluetooth Always Off)。 ロガーは、保護ロガーブーツ (MX2203 および MX2204) の HOBOb ボタンを押すか、スイッチ (MX2501) を押して起動させるときのみ、アプリが受信する Bluetooth 信号を「アドバタイズ」または定期的送信します。これは、ロガーのバッテリー電力を最も消費しないオプションです。 • 水検出時 Bluetooth オフ (Bluetooth Off Water Detect) 水の存在が検出される場合、ロガーはアドバタイズしません。ロガーが水中から取り出されると、Bluetooth のアドバタイズが自動的に再開します。このオプションはバッテリー電力をある程度、節約します。注： このオプションが選択されている場合、ロガーは水の有無を 15 秒毎に確認します。 • Bluetooth 常時オン (Bluetooth Always On)。 ロガーは常にアドバタイズします。これは、一番バッテリー電力を消費するオプションです。
データを以下を通じてアップロードする (Upload Data via)	ロガーからのデータを HOBObLink にアップロードする方法を選択します (アクティブな HOBObLink アカウントが必要。HOBObconnect の設定を参照してください): • ゲートウェイ (Gateway)。 ゲートウェイは、定期的にロガーから HOBObLink にデータを自動的にアップロードします (ゲートウェイの設定の詳細については、ゲートウェイの設定を参照)。注： MX100 シリーズのロガーはゲートウェイに対応していません。MX100 ロガーとゲートウェイの互換性に関する質問については、Onset テクニカルサポートにご連絡ください。 • HOBObconnect。 アプリでロガーを読み出すたびに、アプリは HOBObLink にデータをアップロードします。 注： [データを以下を通じてアップロードする (Upload Data via)]がグレーで表示されている場合は、アプリの[データをアップロードする (Upload Data)]設定が無効になっています。詳細は、HOBObconnect の設定を参照してください。

センサーおよびアラーム設定(Sensors and Alarm Setup)

センサー&アラーム

セットアップ設定 説明

一般的なセンサーとアラームの設定については、次の手順に従ってください。MX1102A および MX1104 / MX1105 モデルのための追加の手順については、そのモデルのセットアップに関するセクションを参照してください。

1. センサーまたはチャンネルをタップします。トグルをタップして、[記録を有効にする (Enable Logging)]に切り替えます（必要な場合）。
2. センサーまたはチャンネルの名前を入力します。
3. センサーのアラームを設定する場合は、各センサーの[低 (Low)]または[高 (High)]を選択し、入力するかスライダーをドラッグして、下限値および/または上限値を設定します。
4. [期間 (Duration)]で、アラームが作動するまでの経過時間を時間または分で選択し、次のいずれか 1 つを選択します。
 - 積算(Cumulative)。記録中に、センサーの読取値が指定した持続期間の許容範囲を超えると、アラームが作動します。たとえば、上限アラームが 85°F に設定され、持続期間が 30 分に設定されている場合、ロガーが設定されてからセンサーの読取値が 85°F を超えた時間が合計で 30 分になると、アラームが作動します。
 - 連続(Consecutive)。センサーの読取値が指定した持続期間中、許容範囲を超えたままになると、アラームが作動します。たとえば、上限アラームが 85°F に設定され、持続時間が 30 分に設定されている場合、すべてのセンサーの読取値が連続 30 分間、85°F 以上の場合にのみアラームが作動します。
5. [保存 (Save)]をタップします。該当する場合、他のセンサーについてもこの手順を繰り返します。

注：

- 温度と RH の測定値が記録されている場合、一連の露点も計算され、読み出し時またはライブデータの表示時にデータファイルで利用できます。
- **MX2001**：水位を計算するには、差圧を有効にする必要があります。絶対圧力を記録するには、温度を有効にする必要があります。流体密度のオプションである [温度について調整された淡水密度(Fresh Water adjusted for Temp)] を選択した場合は、温度も有効にする必要があります。
- 実際のアラーム上限および下限値はロガー対応値に一番近い値に設定されます。
- **MX1101** および **MX2001** ロガーおよび USB 動作による **MX1102** ロガーの場合、アラーム限度は、15 秒ごとにチェックされます。バッテリー動作による **MX1102** ロガーでは、CO₂ アラーム限度は 5 分毎にチェックされています（温度と RH アラーム限度は 15 秒ごとにチェックされています）。バッテリーで作動するロガーのために CO₂ センサーアラームを設定する場合、指定する持続時間は 5 で割り切れる値で、少なくとも 5 分の時間にすることをお勧めします。
- **MX1104**、**MX1105**、**MX2200**、**MX2300**、および **MX2501** ロガーの場合、アラーム限度は、各ロギングインターバルでチェックされます。しかしながらバーストロギングが設定されている場合、ロガーは、ロギングインターバルの代わりに、バーストリガー条件をチェックする頻度としてバーストロギングインターバルを使用します。
- アラームが作動すると、アラームアイコンがロガーLCD で点灯します（該当する場合）。ロガーの[アラーム/ステータス (Alarms/Stats)] ボタン(MX1101)、[クリア/次に (Clear/Next)] ボタン(MX1102) または下のボタン (MX1104 と MX1105) を押すと、アラームを作動させた値を表示できます。LCD は、配置中に範囲外となったサンプルのうち最もかけ離れたものを表示します（該当する場合）。

センサー&アラーム セットアップ設定 説明

MX1102A センサー設定

MX1102A ロガーの CO₂ センサーを設定する場合、次の設定も利用できます。

- **標高補正(Altitude Compensation)**。ロガーを 305 メートル (1,000 フィート) 付近の場所に配置する場合は、[標高補正を有効にする (Enable Altitude Compensation)] を選択します。海拔高度をメートルまたはフィートで入力します。**注**：通常の使用では、CO₂ の測定値は、気圧の mbar の変化ごとに読取値が約 0.135% 変化します（センサーは 1,013 mbar で較正されています）。CO₂ の精度を可能な限り上げるために、ロガーを配置するときに標高補正を使用してください。
- **手動較正(Manual Calibration)**。手動較正は、ロガーを較正するのに最適な方法です。このオプションは、ロガーの[較正 (Calibrate)] ボタンを使用して手動でロガーを 400 ppm に較正する場合に使用します。これには、定期的にロガーを乾燥している日の新鮮な空気がある屋外または換気システムに接続していない空いている屋内の場所に 5 分間配置する必要があります。これは、常に人がいる建物にロガーが配備されている場合、ロガーを 8 日ごと（通常の自動較正スケジュール）よりも頻繁に較正する場合、または記録の開始直後にロガーを較正する場合に推奨されます。**注**：ロガーが起動するたびに、最初に手動較正を実行しない限り、24 時間後に自動較正が行われ、その後 8 日後に再び自動較正が行われます。
- **自動較正(Auto Calibration)**。記録が開始してから最初の 24 時間以内、その後 8 日ごとにロガーの自動較正をする場合は、[自動 (Automatic)] をタップします。ロガーは、該当する場合、24 時間または 8 日間の期間中に特定された CO₂ の最低値のすぐ後の 3 つの CO₂ の測定値の平均に基づいて較正されます。

重要：正確な自動較正を行うためには、ロガーが配置されている建物または場所が 8 日間に少なくとも 1 回は空になる必要があります（たとえば、週末または夜間の空のオフィスビルのバックグラウンド CO₂ レベルは通常 400~450 ppm です）。

ロガーが 8 日間の期間中に CO₂ レベルが 400 ppm に低下しない場所に配置されている場合は、不正確な CO₂ の読取値が報告されないようにするため、手動較正を定期的に実行する必要があります。自動較正の使用を計画しているものの、記録を開始する 1 日目から建物が常に人がいる状態になる場合は、手動較正というオプションも使用できます。記録開始直後にロガーを手動較正し、その後自動較正を使用できます。**注**：手動較正が実行されると、24 時間の自動較正はキャンセルされ、自動較正は手動較正してから 8 日後に実行されます。（ロガーを再起動すると、24 時間/8 日ごとの自動較正ルーチンがリセットされます）。

ロガーの較正に関するさらなる詳細は、

www.onsetcomp.com/support/manuals/22504-mx1102a-manual を参照してください。

センサー&アラーム セットアップ設定 説明

MX1104/MX1105 センサー設定

MX1104 および MX1105 ロガーの外部センサーを設定する場合は、このセクションの指示とガイドラインに従ってください。

- **自己記述型センサー**：センサータイプは、接続すると自動的に検出されます（つまり、下の例の場合 200 Amp CT）。

接続された自己記述型センサー。「接続済み：<センサータイプ>」>(Connected: <sensor type>)」として表示される

矢印をタップする

トグルをタップして、このセンサーの記録を有効にする

選択したセンサータイプは自動的に検出されます。名前を追加し、スケーリングをセットアップし（該当する場合）、アラーム範囲を設定して、[保存 (Save)] をタップします

- **その他の外部センサー**：アプリは、センサーを接続するとその接続を検出しますが、自動的にセンサーを検出しません。次の例にあるように、正しいセンサーまたはケーブルタイプを選択する必要があります。

(自己記述型以外の) 外部センサーが接続され、「接続済み(Connected)」として表示される

矢印をタップする

トグルをタップして、このセンサーの記録を有効にする

ここをタップしてセンサータイプを選択する

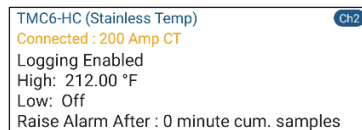
リストをスクロールして、センサーまたはケーブルを選択し、[OK] をクリックする

選択したセンサーがここに表示されます。名前を追加し、スケーリングをセットアップし（該当する場合）、アラーム範囲を設定して、[保存 (Save)] をタップします

センサー&アラーム セットアップ設定 説明

すべての外部センサーに関する注意：

- カスタムスケールリングが利用可能な場合は、[シリーズ名 (Series Name)]、[単位 (Unit)]、および[高 (High)]と[低 (Low)]の値を入力します。
- MX1104 ロガーの場合、外部センサーはチャンネル 1 です。MX1105 ロガーの場合、センサーチャンネル番号は、外部センサーが接続されているアナログセンサーポートの上に表示されます。
- アプリは、センサーが正しく接続されている場合は緑色のテキストで [接続済み (Connected)] を表示し、センサーが接続されていない場合は赤色のテキストで [切断済み (Disconnected)] を表示します。赤色のテキストで [センサーエラー (Sensor Error)] が表示された場合は、センサーまたはケーブルが完全に装着され、ロガーのアナログセンサーポートに正しく取り付けられていることを確認してください。
- 以前に他のセンサー用に設定されたポートに自己記述型センサーを接続すると、新しいセンサー用にそのチャンネルを再設定するまで、[接続済み : <センサータイプ>] (Connected: <sensor type>) がオレンジ色のテキストで表示されます。



- 自己記述型センサーを使用していない場合は、アプリで正しいセンサータイプを選択してください。間違ったタイプを選択すると、誤ったデータが記録されます。さらに、センサーを取り外した後も、アプリはそのチャンネルに対して最後に選択したセンサータイプを表示します。自己記述型センサー以外の外部センサーを接続しても、以前に選択したセンサータイプが引き続き選択されます。必ず接続した新しいセンサーに適切なセンサータイプを選択してください。
- ロガーの記録中にセンサーを切断した場合、またはセンサーがアナログセンサーポートに完全に挿入されていない場合、そのチャンネルに関する警告アイコンが LCD に表示され、ロガーが 1 回ビープ音を鳴らします。ロガーの上ボタンを使用して、警告のあるチャンネルを表示させます。有効な現在の読取値の代わりにダッシュが表示されます。センサーが切断されている間、誤った測定値がアプリに表示され、ロギングインターバルに応じて記録されます（たとえば、センサーが 5 分間切断され、ロギングインターバルが 1 分に設定されている場合、センサーが切断されてる間に 5 つのエラーデータポイントが存在することになります）。センサーが再接続されると、警告アイコンが消え、LCD 上のチャンネルのダッシュが正しい値に置き換わり、正しい読取値が記録されます。
- 外部センサーが取り付けられていないチャンネルの記録は無効にしてください。センサーのないチャンネルで記録が有効になっている場合、そのチャンネルの LCD に警告アイコンが表示され、ロガーが 1 回ビープ音を鳴らします。
- ロガーが記録している間は、センサーを交換したり、センサーを空のポートに移動させたりしないでください。センサーに物理的な変更を加える前に、ロガーを停止してください。
- 外部センサーの取り付けに関するさらなる詳細は、www.onsetcomp.com/support/manuals/23968-mx1104-and-mx1105-manual で入手できる製品マニュアルを参照してください。

MX2001 水位ロガーの流体パラメーターの更新

ロガーの記録中に MX2001 水位ロガーの基準水位と流体密度を更新するには：

1. [デバイス (Devices)] をタップします。

2. タイルを検索またはスクロールしてロガーを探し、タイルをタップしてロガーに接続します。

3.  をタップします。

4. 新しい基準水位を入力し、単位タイプを選択します。

5. 必要に応じて別の流体密度を選択するか、手動入力(Manual Input)の横に独自の流体密度を入力します。

6. [保存 (Save)]をタップします。変更はすぐに反映されます。これにより、HOBOb ファイルで基準水位と流体密度イベントも発生します。

注:  をタップしてロガーをダウンロードした後でも、HOBOb ファイルを表示しているときに流体パラメータを編集することができます。詳細は、*HOBObfile* ビューワーの使用を参照してください。

MX2501 pH および温度ロガーの較正

MX2501 の pH および温度ロガーは、pH 7、4 および/または 10 バッファーを使用して正確な pH を読み取るためには、較正する必要があります。ロガーを較正するために必要なもの:

- pH センサーをすすぐための脱イオン水または蒸留水と噴射ボトル。
- pH 電極が取り付けられ、カップガードが取り外されたロガー。
- ビーカーに注がれた較正液(バッファー溶液ともいう)。ロガーは、pH 7 と 4 または 10 の 2 つの溶液を使用して較正する必要があります。3 つすべてを使用して較正するオプションもあります。

較正を始める前に:

- 気温により較正バッファーとサンプルの pH 値が異なることになります。サンプルと同じ温度のバッファーでロガーを較正することが重要です。バッファー pH 値に対する温度の影響については、較正バッファーボトルまたはロガーマニュアルの表を参照してください。
- ロガーをバッファー溶液に入れるときは、センサーエンドキャップ、温度センサー、クロージャーキャップが溶液に浸されていることを確認してください。
- このセクションでは、ロガーの較正の概要について説明します。さらなる詳細は、www.onsetcomp.com/support/manuals/22511-mx2501-manual で入手できる製品マニュアルを参照してください。

MX2501 ロガーを較正するには:

1. [デバイス(Devices)]をタップします。(必要に応じて)ロガーの取り付け側のボタンを押して、起動させます。タイルを検索またはスクロールして、ロガーを探します。
2. タイルをタップして、ロガーに接続します。pH 電極の較正を行ったことがない場合、最後の較正が 7 日より前に行われた場合、またはファームウェアが更新された場合、ロガーを較正するよう自動的にプロンプトが表示される場合があります。自動的にプロンプトが表示されない場合、 をタップします。
3. 噴射ボトルを使用して、脱イオン水または蒸留水で pH センサーをすすぎます。
4. ロガーのセンサー側を pH 7 溶液に入れて、[開始(Start)]をタップします。
5. pH の読取値が安定したら、[確認 (Confirm)] をタップします。
6. 脱イオン水または蒸留水で pH センサーをすすぎます。
7. pH 4 バッファーを使用している場合は、センサー側を pH 4 溶液に入れ、[開始(Start)]をタップします。pH 4 バッファーを使用していない場合は、[スキップ(Skip)]をタップして手順 9 に進みます。
8. pH の読取値が安定したら、[確認 (Confirm)] をタップします。脱イオン水または蒸留水で pH センサーをすすぎます。
9. pH 10 バッファーを使用している場合は、センサー側を pH 10 溶液に入れ、[開始(Start)]をタップします。pH の読取値が安定したら、[確認 (Confirm)] をタップします。pH 10 バッファーを使用していない場合は、[スキップ(Skip)]をタップします。

10. 傾きとオフセットが許容範囲であることを確認し、[保存(Save)]をタップします。傾きとオフセットが許容範囲でない場合は、戻る矢印をタップして、必要に応じてこのセクションの校正する手順を繰り返します。

重要：校正が完了したら、必ず脱イオン水または蒸留水で pH センサーをすすいでください。 *ローガーの設定の説明に従って、構成設定を選択します。その後 10 分以内にローガーを配置しない場合、ローガーを保存液に入れます。*

注：

- 最後の校正の日付、傾きとオフセット値、および校正に使用されたバッファーは、参照用に[設定(Configuration)]画面の[配置情報(Deployment Information)]の下に表示されます。
- 校正中のステータスメッセージが読取値が無効であるか、不安定であることを表示している場合は、以下を試してください。
 - センサーが正しいバッファー溶液にあることを確認するか、センサーをすすいで校正をやり直してください。
 - 校正溶液からセンサーを取り出し、センサーを洗浄します（詳細については、[www.onsetcomp.com / support / manuals / 22511-mx2501-manual](http://www.onsetcomp.com/support/manuals/22511-mx2501-manual) で入手できる製品マニュアルを参照）。校正プロセス全体を再度やり直します。
 - センサーを点検して、損傷していないことを確認します。**注：**電極のガラス球に肉眼では見えない微小なひび割れがある場合があります。
 - pH 電極が 6 か月以上経過しているものであれば交換します。pH 電極の予想寿命は 6 か月で、6 か月以上経過すると読取値が不安定になります。
- アプリ上の読取値が不安定であるとの報告があっても、お客様の用途において許容範囲である場合、[停止(Stop)]をタップして、[確認 (Confirm)] をタップし校正を進めることができます。
- 記録中もローガーを校正することができます。校正が保存された後、新しく記録されるデータは新しい校正を使用します。新しい校正が保存される前に記録されたデータは古い校正のデータを使用します。複数の校正に基づいたデータを一つのファイル中にあることを望まない場合、ローガーを停止し読み取りを行ってください。その後校正し、再度設定することができます。

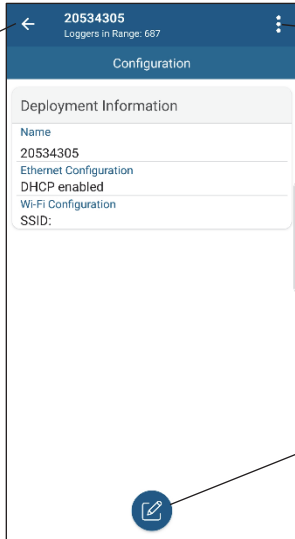
ゲートウェイの設定

注：これらの手順では、ゲートウェイに電源が入って完全に起動されていて、イーサネットケーブルがすでに接続されている必要があります（該当する場合）。最初のゲートウェイ設定に関する詳細は、www.onsetcomp.com/support/manuals/23470-mxgtw1-gateway-manual で入手できる製品マニュアルを参照してください。

ゲートウェイの設定：

1. [デバイス(Devices)]をタップします。
2. タイルを検索またはスクロールして、ゲートウェイを探します。
3. タイルをタップして、ゲートウェイに接続します。

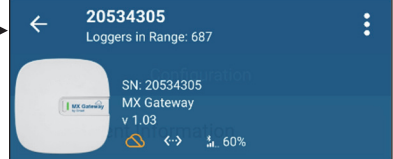
4. 接続されたら、以下に示されている通りに画面下部にある  をタップして、ゲートウェイを設定します。ゲートウェイに関する情報をさらに表示することもできます（該当する場合は、右上隅にある  をタップします）。



接続を切り、デバイスのリストに戻るにはこの矢印をタップ

ゲートウェイを設定するにはこのアイコンをタップ

iPhone、iPad または Android デバイスの場合、ここをタップして、シリアル番号、ファームウェアのバージョン、右の表にある情報など、ゲートウェイに関する詳細を表示させます。**注:** Windows 版の場合、これらの機能はすべてメイン画面に表示されます。



アイコン 意味:

	イーサネット経由で接続されました
	Wi-Fi 経由で接続されました
	ネットワークの状態が不明です
	ゲートウェイが実行中です
	ゲートウェイが設定されていません
	ゲートウェイに問題があります。ゲートウェイ設定を確認してください。
	ゲートウェイからスマートフォン、タブレットまたはコンピュータの信号強度

5. ゲートウェイの名前を入力します。名前を入力しない場合、ゲートウェイのシリアル番号が名前として使用されます。
6. イーサネット接続が DHCP（動的 IP アドレス）を使用している場合、手順 7 にスキップします。
- 静的 IP アドレスを使用してイーサネットをセットアップするには、[イーサネットの設定(Ethernet Configuration)]をタップし、DHCP のトグルをタップして DHCP を無効にします。ネットワークのフィールドに入力し、[保存(Save)]をタップします。必要に応じてネットワーク管理者に相談してください。
 - Wi-Fi をセットアップするには、[Wi-Fi 設定(Wi-Fi Configuration)]をタップして、[現在のネットワーク (Current Network)]をタップするかネットワーク名を入力します。ネットワークのパスワードを入力し、[保存(Save)]をタップします。
7.  をタップしてゲートウェイの新しい構成設定を保存します。

ゲートウェイは定期的に範囲内のログをチェックし、HOBOLink にデータをアップロードします（アクティブな HOBOLink アカウントが必要です。*HOBObconnect 設定を参照*）。ゲートウェイ経由でデータをアップロードするようにログを設定する必要があります（*ログの設定を参照*）。**注:** MX100 シリーズのログはゲートウェイに対応していません。MX100 ログとゲートウェイの互換性に関する質問については、Onset テクニカルサポートにご連絡ください。

ログの読み出し

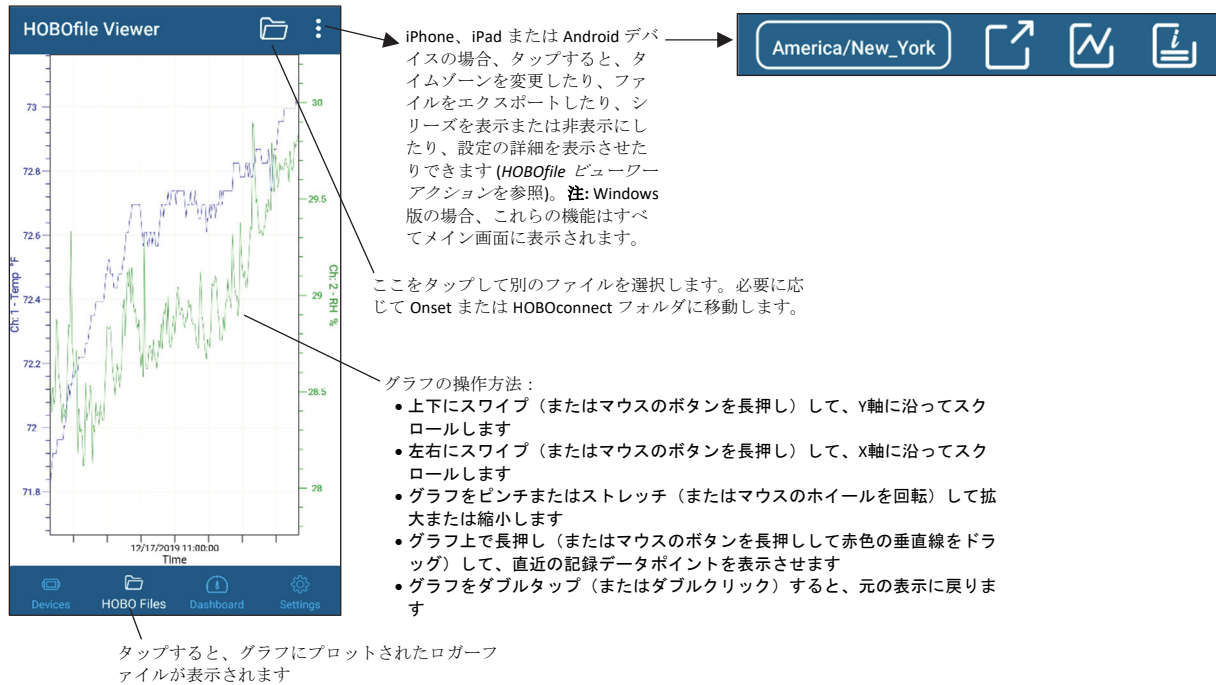
ログからスマートフォン、タブレットまたはコンピュータにデータを読み出すかオフロードするには：

- [デバイス (Devices)]をタップし、次に、接続するログがあるタイルをタップします（必要に応じてログを起動させるか、あるいは該当する場合には、水から取り出してください）。
- ログが接続されたら、画面下部の  をタップします。読み出しが完了するまで待ちます。
- HOBOb ファイルをタップして、データを表示またはエクスポートします（*HOBObfile ビューワーの使用を参照*）。

読み出しが完了すると、ログが HOBObconnect 経由でデータをアップロードするように設定されている場合、データは HOBOLink に自動的にアップロードされます（アクティブな HOBOLink アカウントが必要です。*HOBObconnect の設定を参照*）。代わりに、ログがゲートウェイ経由でデータをアップロードするように設定されている場合、ゲートウェイはこの読み出しとは関係なく、定期的にデータをアップロードし続けます。

HOBOfile ビューワーの使用

HOBOfile ビューワーを使用して、ロガーからオフロードされたデータを表示またはエクスポートします。HOBOfile ファイルをタップして、開くファイルを選択します。



HOBOfile ビューワーとアクション

HOBOfile ビューワーを使用している時に以下のオプションが利用できます（該当する場合は、右上隅にあるこのアイコン



を最初にタップします）：

タップするアイコン： できること：



これは、ロガーが設定されたときにスマートフォン、タブレットまたはコンピュータに設定されたタイムゾーンの設定です。タイムゾーンをタップして別のタイムゾーンを選択し、[保存(Save)]をタップすると、データを XLSX または CSV にエクスポートするときにグラフに表示され、使用されるタイムゾーンが変更されます。タイムゾーンの変更は、ファイルが HOBOfile ビューワーで開いている間のみ適用されるので注意してください。ファイルを閉じて再度開くと、ロガーの設定時に使用された元のタイムゾーンに戻ります。



タップして、HOBOfile ビューワーで現在開いているファイルをエクスポートして共有します。次のいずれかを選択します：

- **XLSX**。これは、1 つ目のタブにすべてのシリーズのデータポイントが含まれ、2 つ目のタブには記録されたイベントが含まれる Excel®ファイルを作成します。
- **CSV**。これは、すべてのシリーズのデータポイントと記録されたイベントを 1 つのスプレッドシートに含む、コンマ区切り値ファイルを作成します。
- **HOBOfile**。HOBOfile ビューワーで開いた.hobo ファイルを共有します。
- **PNG**。これは、HOBOfile ビューワーに現在表示されているグラフの画像を作成します。同じ HOBOfile ファイルから複数回 PNG にエクスポートすると、既存の.png ファイルが最新の.png ファイルで上書きされるので注意してください。したがって、グラフの複数の表示（デフォルト表示と拡大表示など）を保存する場合は、最初にエクスポートした PNG を共有してから他をエクスポートするようにしてください。

エクスポートしたファイルは、エクスポートした直後に共有するかどうかに関係なく、スマートフォンまたはタブレットに保存されます。ファイルにアクセスするには、スマートフォンまたはタブレットのファイルフォルダシステムに移動します。Android デバイスでは、内部ストレージを選択し、Onset フォルダに移動します。Apple®デバイスでは、HOBOfile フォルダを選択します。ロガーからダウンロードされた HOBOfile ファイルは、Android デバイスの Onset フォルダまたは Apple デバイスの HOBOfile フォルダに保存されます。エクスポートされた XLSX、CSV、PNG（画像）ファイルはすべてサブフォルダに保存されます。

Windows コンピュータの場合、上記の[エクスポート (Export)]オプションの 1 つを選択して、ファイルを選択したフォーマットで、コンピュータの選択した場所に保存します。その後、必要に応じて希望する方法でファイルをメールで送信したり、または共有したりできます。



ここをタップして、センサー、チャネル、およびロガーイベントを表示または非表示にし、[OK]をタップします。デフォルトでは、ロガーイベント（アラームが作動またはアラームをクリア（Alarm Tripped or Alarm Cleared）など）、派生シリーズ（露点など）、統計はグラフに表示されません。



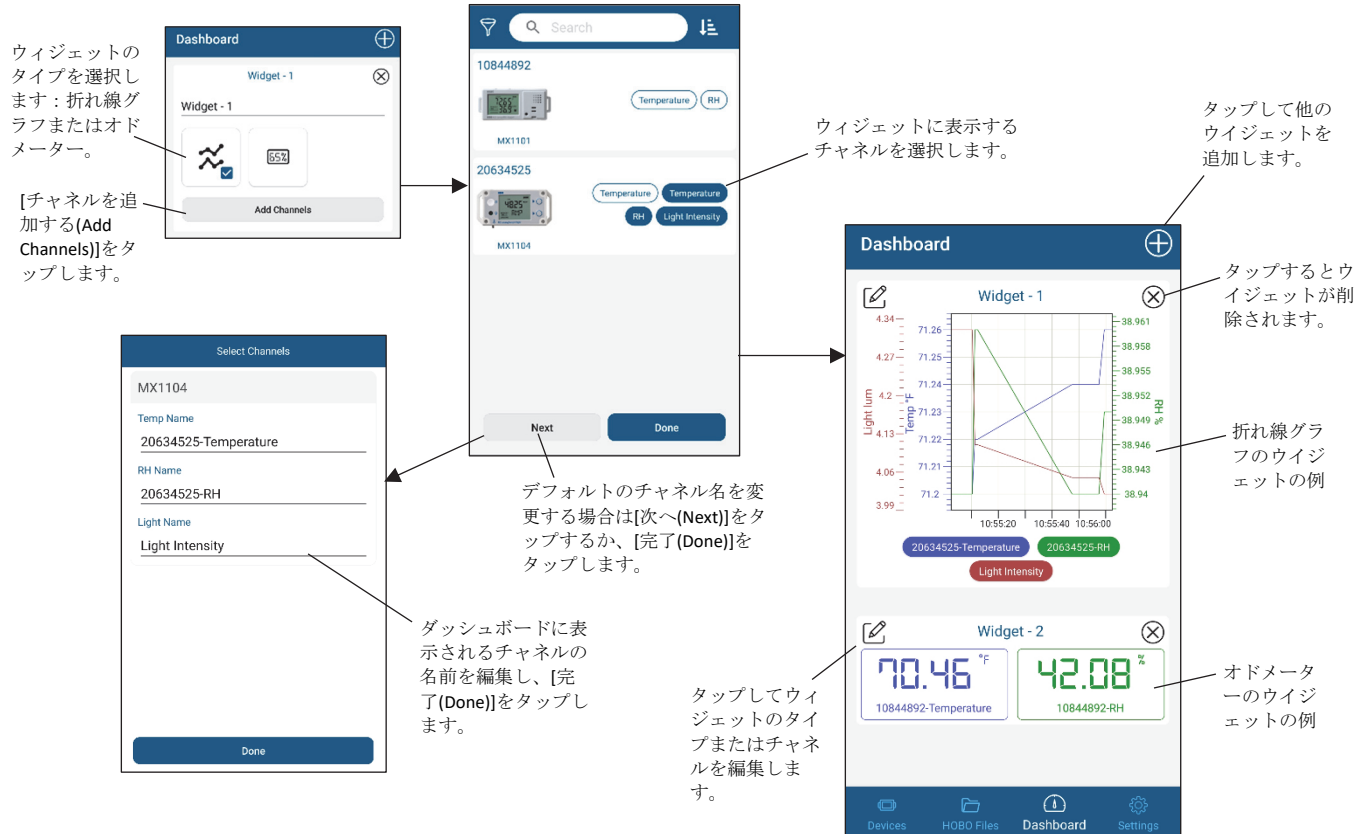
ここをタップして、ロガー用に選択された構成設定を表示します。**MX2001 ロガーのみ**：このアイコンをタップすると、基準水位、流体密度、基準時間を編集することもできます。配置情報(Deployment Information)の中で、流体パラメーター(Water Parameters)画面で[基準水位(Reference Water Level)]または[流体密度(Water Density)]をタップして設定を編集します。同じ流体パラメーター(Water Parameters)画面で、[基準時間(Reference Time)]をタップし、記録されたデータポイントに関連する時間を選択して、[保存(Save)]をタップします。これらの新しい設定を HOBOfile ファイルに適用するには、流体パラメーター(Water Parameter)画面で[保存(Save)]をタップします。

ダッシュボードの使用

ダッシュボードをセットアップすると、ロガーに接続しなくても、スマートフォンまたはタブレットの通信範囲内にあるロガーの最新の読取値をすぐに表示できます。これには、ロガーが Bluetooth が有効な状態で起動している必要があります（ロガーの設定を参照）。

ダッシュボードのセットアップ：

1. ダッシュボードをタップします。
2. 右上隅にある  をタップします。
3. ダッシュボードに追加するウィジェット(widget)を設定します。



ウィジェットのタイプを選択します：折れ線グラフまたはオドメーター。

[チャンネルを追加する(Add Channels)]をタップします。

ウィジェットに表示するチャンネルを選択します。

タップして他のウィジェットを追加します。

タップするとウィジェットが削除されます。

折れ線グラフのウィジェットの例

オドメーターのウィジェットの例

デフォルトのチャンネル名を変更する場合は[次へ(Next)]をタップするか、[完了(Done)]をタップします。

ダッシュボードに表示されるチャンネルの名前を編集し、[完了(Done)]をタップします。

タップしてウィジェットのタイプまたはチャンネルを編集します。

ロガーが通信範囲内にある場合、測定値は毎秒更新されます。ダッシュボードに表示される測定値は、ロガーの設定時に選択したロギングインターバルで記録されるデータポイントと異なる場合がありますので注意してください。ロガーが範囲外の場合、グラフのウィジェットには測定値が表示されず、オドメーターのウィジェットには、ロガーが最後にスマートフォン、タブレットまたはコンピュータと通信したときの最新の測定値が表示されます。

HOBObconnect の設定

[設定(Settings)]をタップして、HOBObconnect の次の設定を変更します。

設定	説明
HOBOblink	HOBOblink アカウントをアプリに接続すると、記録されたデータが www.hobolink.com に自動的にアップロードされるようになり、ここでデータをさらに分析したり、ダッシュボードをセットアップしたりできます。 [アカウントを接続する(Connect Account)]をタップします。 HOBOblink のユーザー名とパスワードを入力し、[接続(Connect)]をタップします。(HOBOblink アカウントがない場合は、まず[新しいアカウントを作成する(Create New Account)]をタップします)。 アカウントが接続されると、次の追加オプションが利用可能になります。 • HOBOblink アカウントをアプリから切断したい場合は、[ログアウト(Log Out)]をタップします。その後、別のアカウントに接続するか、同じアカウントに再接続できます。 • [データのアップロード(Upload Data)] トグルをタップして、ゲートウェイまたはアプリから記録されたデータを自動的にアップロードする機能を有効または無効にします。このオプションが無効になっている場合、ロガーの設定時にデータをアップロードするオプションがグレー表示になります。このオプションを有効にすると、ロガーの設定時に、ゲートウェイか HOBObconnect のどちらを経由してデータをアップロードするかを選択できます。 • [Wi-Fi のみ(Wi-Fi Only)] トグルをタップして、アプリがデータのアップロードに Wi-Fi のみを使用するのを有効または無効にします。[Wi-Fi のみ(Wi-Fi Only)]が有効になっている場合、Wi-Fi に接続されている時のみアプリはデータをアップロードします。[Wi-Fi のみ(Wi-Fi Only)]が無効になっている場合、Wi-Fi に接続されていない時にアプリはセルラー接続を使用してデータをアップロードします。 • 読み出しの待機状態(Readout Queue Status)は、ロガーから読み取られた HOBOb ファイルであって、HOBOblink にアップロード待ちのものがあるかどうかを表示します(例えば、アプリがインターネットに接続できず、後で再試行する場合)。[状態(status)]をタップすると、現在または保留中になっているファイルのアップロードの一覧が表示されます。
ユーザー設定 (User Settings)	• US 単位または SI 単位のいずれかを選択します。単位の変更は、アプリ全体ですぐに反映されます。ロガーLCD (該当する場合)に表示される単位は、次にロガーの設定が行われるときにアップロードされます。 • タップして、[ダークモード(Dark Mode)]を有効にするか、無効にするかを選択してください。これにより、アプリの配色を変更します。[ダークモード(Dark Mode)]を有効にすると、アプリは黒の背景に明るい文字を表示します。[ダークモード(Dark Mode)]を無効にすると、アプリは白の背景に暗い文字を表示します。
デバイス (Devices)	[自分のデバイスリストをクリア(Clear My Devices List)]は、スマートフォンまたはタブレットに接続されているデバイスのみがデバイス画面に表示されるようにする[自分のデバイス(My Devices)]フィルター (デバイスの表示を参照) と連動します。[自分のデバイス(My Devices)]のフィルタービューから、接続されたすべてのデバイスを消去したい場合に、[自分のデバイスリストをクリア(Clear My Devices List)]をタップします。この場合、範囲内のデバイスを表示させるには別のフィルターに切り替える必要があります。
診断 & トラブルシューティング (Diagnostics & Troubleshooting)	これらの設定は、収集され、Onset と共有される情報を指定します。 • [診断を Onset と共有する(Share Diagnostics with Onset)] トグルをタップして、トラブルシューティングおよび将来の機能強化のためのソフトウェアに関する情報共有を有効または無効にします。 • Onset テクニカルサポートから指示があった場合のみ、[記録を有効にする (Enable Logging)] トグルをタップして、この設定を有効にしてください。この設定を有効にすると、[Onset とログを共有する(Share Logs with Onset)] オプションが表示されます。Onset テクニカルサポートの指示に従って使用してください。

よくある質問

アプリの問題のトラブルシューティングをする上で、以下の質問が助けになります。さらにサポートが必要な場合、設定の中の[HOBObconnect について(About HOBObconnect)]をタップしてリソースの一覧を表示するか、1-800-LOGGERS、508-759-9500 または www.onsetcomp.com/support/contact で Onset テクニカルサポートにご連絡ください。

私のロガーがデバイスの一覧に表示されないのはなぜでしょうか？

- ロガーに新しいバッテリーが必要かもしれません（該当する場合）。バッテリーに十分な電圧が残っており、正しく取り付けられている場合、ロガーの LCD（該当する場合）に記号が表示されます。
- ロガーがスマートフォン、タブレット、コンピュータまたはコンピュータのドングルの通信範囲内にないか、または何らかの通信の障害物があります。ロガーに近づけてください。ワイヤレスの通信範囲は見通し距離で、約 30.5 m (100 ft) です。
- MX100、MX1104、MX1105、MX2200、MX2300 または MX2501 ロガーがスリープ状態かもしれません。ロガーのボタンを押して起動させます。
- [水検出時 Bluetooth オフ(Bluetooth OFF Water Detect)]が設定されている場合、MX2203、MX2204 または MX2501 ロガーを水から取り出してください。
- スマートフォン、タブレットまたはコンピュータの設定で Bluetooth が有効になっていることを確認してください。
- ロガーが表示から除外されるフィルターになっていないか、フィルターの設定を確認してください。

私のゲートウェイがデバイスの一覧に表示されないのはなぜでしょうか？

- ゲートウェイの電源投入が完了していないかもしれません。初めてプラグを差し込む場合、ゲートウェイは数分間、設定ができる状態ではなく、アプリには表示されません。
- ゲートウェイがスマートフォン、タブレット、コンピュータまたはコンピュータのドングルの通信範囲内にないか、または何らかの通信の障害物があります。ゲートウェイに近づけてください。ワイヤレスの通信範囲は見通し距離で、約 30.5 m (100 ft) です。
- スマートフォン、タブレットまたはコンピュータの設定で Bluetooth が有効になっていることを確認してください。
- ゲートウェイが表示から除外されるフィルターになっていないか、フィルターの設定を確認してください。

デバイス一覧にロガーがありますが、接続できません。どうしたらよいでしょうか？

- アプリを閉じて、もう一度開いてください。
- スマートフォン、タブレットまたはコンピュータの電源を切り、もう一度電源を入れてから接続を試みてください。

ロガーの設定を行っていましたが、接続が切れてしまいました。設定は保存されているでしょうか？

接続が切れる前に  をタップしていない場合、設定はロガーに保存されません。ロガーに再接続して、設定を再入力してください。

他の人が設定できないようにロガーをロックするにはどうしたらよいですか？

ロガーに接続して、（該当する場合）右上隅の  をタップし、 をタップします。パスワードを入力して、[セット(Set)]をタップします。別のデバイスがロガーに接続を試みる時はいつでも、パスワードが必要になります。ロガーの設定を行ったデバイスについては、自動的にパスワードが保持されるため、そのデバイスがロガーに接続する際にその都度パスワードを入力する必要はありません。

ロガーのパスワードをリセットするにはどうしたらよいですか？

ロガーに接続して、（該当する場合）右上隅の  をタップし、 をタップして、[リセット (Reset)]をタップします。あるいは、ロガーの上部にある[開始 / 停止(Start/Stop)]ボタンと[アラーム / ステータス(Alarm/Stats)]ボタン(MX1101)または[次に / クリア(Next/Clear)]ボタン(MX1102A)、または上下のボタン(MX1104 と MX1105)を同時に 3 秒間押すこともできます。MX100、MX2200、MX2300 または MX2501 はボタンを 10 秒間押すか、MX2001 ロガーはバッテリーの間にあるリセットボタンを押してください。

ロガーのアラームが作動しました。クリアするにはどうしたらよいですか？

ロガーLCD（該当する場合）およびアプリ（MX100 および MX2001 を除くすべてのモデル）内の視覚アラームは、ロガー設定時に[次の時間まで視覚アラームを維持(Maintain Visual Alarms Until)]で選択した設定に基づいてクリアされます。これは、どのオプションが選択されたかにより、ロガーが再設定されるとき、センサーが限度内に戻ったとき、またはロガーのボタンが押されたときに(該当する場合)視覚アラームがクリアされることを意味します。MX100 アラームインジケータはロガーを再設定する場合にのみクリアされます。

可聴アラームが鳴っている場合、ロガーのボタンを押してアラームを停止するか、ロガーに接続して  をタップします(該当する場合)。

ロガーをオフロードするにはどうしたらよいですか？

ロガーに接続して、 をタップします。読み出しが完了したら、HOBOb ファイルをタップして、オフロードされたデータを表示させるか、エクスポートします。

ロガーの読み出しに 1 分以上の時間がかかります。これは普通のことでしょうか？

メモリがいっぱいになったロガーの場合、読み出しにかかる時間は 1 分以下です（MX1104 と MX1105 を除くすべてのモデル）。読み出しに 1 分以上の時間がかかる場合、可能なら数メートル以内に、モバイルデバイスを近づけてください。モバイルデバイスがロガーから遠くなればなるほど、読み出しにかかる時間が長くなります。MX1104 と MX1105 ロガーは他のモデルよりメモリ容量が大きいので、読み出しには数分の時間がかかります。

HOBObfile ビューワーでグラフを拡大表示しました。元の表示に戻すにはどうしたらよいですか？

グラフをダブルタップすると、元の表示に戻ります。

グラフではなく、リストで個々のデータポイントを表示させるにはどうしたらよいですか？

HOBObfile ビューワーからファイルをエクスポートしてください。（該当する場合）右上隅の  をタップし、次に  をタップします。XLSX または CSV のいずれかを選択してください。これにより、すべてのデータポイントを含むスプレッドシートが作成されます。

グラフからシリーズまたはイベントを追加したり、削除するにはどうしたらよいですか？

HOBObfile ビューワーで、（該当する場合）右上隅の  をタップし、次に  をタップします。グラフ上で表示または非表示にしたいセンサー、統計、イベントを選択または非選択し、[OK]をタップします。

すべてのデータファイルをコンピュータにコピーする方法はありますか？

Android デバイスの場合、スマートフォンまたはタブレットを USB ケーブルでコンピュータに接続してください。スマートフォンまたはタブレットの Onset ディレクトリに移動して、ファイルをコピーしてください。ロガーからダウンロードした HOBOb ファイルはメインの Onset フォルダに保存され、エクスポートされた XLSX、CSV、PNG (画像) ファイルはサブフォルダに保存されます。注: スマートフォンまたはタブレットがコンピュータに接続されたままファイルをエクスポートすると、Android の処理の関係で、エクスポートされたファイルがコンピュータ上に表示されるまでに時間がかかる場合があります。

Apple デバイスの場合、Files を使用してファイルを HOBObconnect フォルダから iCloud にコピーしてください。iCloud はコンピュータからアクセスすることができます。Windows® の iTunes のファイル共有機能を使用するか、Finder を使ってファイルを Mac® に転送することができます。

Windows コンピュータの場合、ファイルは、HOBObconnect のドキュメントフォルダに保存されます。ファイルを別のフォルダにコピーしてください。

デバイスに表示されるロガーが多すぎます。自分のデバイスのみを表示させるにはどうしたらよいですか？

画面の左上にある  をタップして、[自分のデバイス(My Devices)]を選択します。ロガーが接続されているデバイスのみがリストに表示されます。

データをゲートウェイから HOBOLink にアップロードするようにロガーが設定されている場合、アプリから読み出しを行ってもデータは HOBOLink にアップロードされますか？

いいえ。データはゲートウェイまたはアプリのいずれかによって HOBOLink にアップロードされ、両方によっては行われません。データをゲートウェイからアップロードするように設定されたロガーの読み出しを行うと、ファイルはアプリのみで利用可能で、HOBOLink にはアップロードされません。アプリを使ってロガーの読み出しをいつ行ったかに関わらず、ゲートウェイは引き続きロガーの監視を行い、定期的にデータを HOBOLink にアップロードします。